

辰野本商報

申上候

久敷沈静を續け黙々裡に蠢動せし糖界も玖瑪瓜哇兩糖の高電に喉られ支那方面の氣配も近來目覺敷ものあり旁々何等かの反撥ある可く感受されたるに、果せる哉二十四日に至り精糖氣配俄然高潮を呈し東西兩市場同時に人氣の沸騰を來し^⑤は二十二圓六十錢を發表し場面亦取引毎に相場を高めて殆ど天井知らずの氣勢を示せり左れば二十四日の二十二圓四十五錢は二十五日の七十五錢に更に二十六日九十錢と上昇又上騰、會社は亦復二十三圓と新高値を發表して一氣呵勢に二十三圓五十錢の堅墨を一撃の下に粉碎せざれば止まざる勃々の霸氣を示し近來絶て見ざる萬丈の氣煙と奔馬空の熱烈の概とを示せり斯く狂奔に狂奔を重ねたる所以を尋ぬれば茫莫として何等具体的捕捉し得る所なしと言へ共要するに打續く外電高と其他各種四圍の狀況等交々此發露に誘致せる譯にて蚊龍遂に池中のものならず、雲を呼んで昇天の機運に際會し克く屈伸の理を明にせるものと言はざ

る可からず、尺蠖の屈するは伸びんが爲めなり、伸ぶるを知つて屈するを知らず、進むを知つて退くを知らざるものは到底其其發展を期し得可きに非ず、今日伸力隆々たる精糖界も久敷屈して徐に期の至るを待ちたる尺蠖の屈伸を學びたるものとも觀察さる。分蜜も頃日來の精糖狂奔に連れて聊か引縮りの商狀を示し五標十月切十八圓三十五錢十一月切十八圓四十五錢處を堅く相場の足取り至極堅實なり。更に新糖方面を窺はんか露國需要其他強氣材料の不尠湧出せる爲め來期新糖産額多大なるに不拘出來値毎に高値を生み出し最近來年に三四切十七圓五十五錢の相場を見るに至り尙買手續出の好氣配を示せり、惟ふに歐亂尙終熄を見ず露國の大需要は既報三十二萬餘噸の關稅免除となり曳て玖瑪瓜哇の暴騰ある等確實なる事實の存在する以上此新高値を見るは亦當然の事たる可く推惟さると言へ其左右強氣材料潤澤にして場面亦如此相場を表す以上來期に於て各租糖會社の賣出も必ずや不廉たるは免れざる所なる可きか來期糖界亦益々多端にして此際一般糖商も周蜜なる

考慮を回らし大勢の卦く所臨機の採算に必勝の策謀を極むべし
赤糖其他一般糖物類は例年初冬の高鳴を爲さるも漸次在荷減少するに殊に上物の欠乏せる爲め心持引縮を見せたり而して馬尼刺の減收を窺つて旁々人氣は新糖に移りたるやの觀あり比利賓今期の收獲豫想は約二十二萬噸にして内分蜜糖六萬五千噸と算せらる。例によりて海外糖況を觀察せんに、玖瑪糖は歐洲諸邦の買付け尙旺盛にして合衆國亦依然として玖瑪糖の輸入を續け白糖製造怠りなく對露輸出に優秀の勝利を獲得せんことを期せり、左れば玖瑪糖は最近飛電に依れば直積五弗六十二仙半、即前電に比して十二仙半の騰貴を示し來年一、二月積四弗三十七仙半を唱ふ
更に瓜哇糖は英佛兩方面よりの買付と印度の需要等從來通り旺盛なる上、露國輸入問題あり之に對し瓜哇は亦吾日本に次ぐの好地位にあることとて之が影響を受けて相場は益々堅實たり、即瓜哇糖の露國輸出の進路を觀察せんか
(一) 遠く英國の買付に依り間接に露國輸入を遂ぐるか
(二) 黑海に入りてオデ

毎月三回七ノ日發行
定假壹枚貳錢郵稅壹錢
廣告料壹行壹圓貳拾錢
發行所 濱田正夫
編輯印刷人 濱田正夫
大阪市南區安堂寺橋通丁目一番地
發行所 濱田日報社

ツサ方面より直接其賣込をなすか(三) 若くは浦汐を通じて之を果すかの三途あるべきも我國の地位の優秀確實なるに及ばざる也而して海外需要の旺盛と船腹不足に依る相場の高唱へは亦止むを得ざる所にして瓜哇舟乘値十二盾六十五仙、來期新糖十二盾三十五仙を唱へたり
更に宏大なる地域を有するに不拘進歩の跡拂々しからざる印度も其耕地を利し全能力を擧げて生産に従事せば相當數量の輸出をなし得可く思惟さる、而して本國英國に於ては依然として砂糖問題に腐心せる有様なれば印度は其豐富なる生産能力を利用し何日の時に其本國に砂糖を供給し得可きか之れ亦興味不尠論題たるべし印度國民經濟の基礎をなせる其宏大なる地域に耕作さるる甘蔗は相當多量なるも今日迄本國に對し砂糖輸出の實を見ざるは吾人聊か脾肉の歎に不堪所なり
(一) 左れば印度は何時の時に輸出糖國として立ち得べきか
(二) 更に印度は其需要せる粗糖以外年々外國より輸入せらるる八十萬噸の白糖に對し其の自給は何時之を果し得可きか
(三) 其有せる宏大なる甘蔗耕作面積よりして之が自給の容易なるのみならず更に進むで五十萬噸の輸出をなし得可きか
之等諸點に付之が構究の價値なしとせ

す印度當局の本年度甘蔗植付面積概算は二、五〇〇、〇〇〇エーカーと稱せられ之を瓜哇の一エーカー當りの甘蔗四十二噸砂糖四噸を以て換算すれば約千萬噸を産し得可く此半數五、〇〇〇、〇〇〇噸とするも印度は其需要する砂糖の全部を生産し得る譯にて更に從來亞米利加瓜哇日本より買付をなしたるものも逆轉して容易に五〇、〇〇〇噸を輸出し得るに至る也、而して印度以外の白糖生産者は印度に於て之が生産者の地位に立ちて全能力を發揮するを好まず蓋し其理由とする所を聞くに逐年印度糖業は漸次進歩を重ね他國斯業者が白糖生産者として活動すべき餘地殆どなくなるべしと言ふに在り、而してこは勿論誇大に過ぎたる附會の説たる可きも左りとて又全く根據なき荒唐無稽の一説として一笑に附するをも得ざるなり宏大にして肥沃なる地域を抱へ勞力亦欠乏を訴ふべきもなく斯業完成の域は尙遠かる可き様觀察さるる印度に於て之が活動に餘地なしとするは餘りに企業心の貧弱なるものと談せざる可からず勿論英國政府は印度糖業發展に付國外者に多少の制限を加へ居ると言へ共多少共發展の餘地ある所に多少の困難を廢して之が進歩發達に努力せずして徒に右顧左盼逡巡するは尠くとも斯界に不忠實なるものと云はざる可

からざる也
而して今日印度産糖額は甘蔗糖二、六〇〇、〇〇〇噸、椰子糖其他五〇〇、〇〇〇噸合計三、一〇〇、〇〇〇噸を下らざる可く其消費は三、八五〇、〇〇〇噸弱なりと言へば差引約八十萬噸は勢他國の供給に待たざる可からざる也、而して若し印度にして現時輸入せる白糖八十萬噸を自國內に於て生産し得るとし更に進むで海外に五十萬噸の輸出を計らんとして其有せる甘蔗耕地面積二、五〇〇、〇〇〇エーカーを充分に使用せんか實に一エーカー當り二噸の砂糖を生産するを以て足る可しと言ふ、而してエーカー當り二噸の砂糖を得るは何等苦心を要す可きものに非ず瓜哇糖生産當りの半に過ぎざれば此際印度にして更に奮勵斯業發達に努力するに於ては五年を出ずして輸出糖國として英本國に之が供給をなし得べしと言ふ。
片栗粉暴騰。頃日來兎角品不足を訴へたる澱粉は海外よりの注文に依り各輸出筋の産地買廻りの爲め出廻薄の小樽兩館の兩市場は九圓六十錢を報じ俄然大暴騰をなせり、今後の形勢は一に海外輸出の如何にあり、續々海外の需要旺盛ならんには、より以上の大なる相場を出すやも計り難く出廻期を控わたる澱粉界今後大に警戒を要すべし。

來期臺灣糖產額豫想各社別表

會社名	產額
帝國製糖會社	五〇〇、〇〇〇擔
林本源	二四〇、〇〇〇
新高	四七〇、〇〇〇
大日本	六一〇、〇〇〇
東洋	一、〇〇〇、〇〇〇
鹽水港	八二〇、〇〇〇
明治	七七〇、〇〇〇
臺南	九〇、〇〇〇
新興	八〇、〇〇〇
臺灣	一、四〇八、〇〇〇
合計	五、九八八、〇〇〇

右は最少内輪に見積りたる所にして各社多少の増減はあるべきも略合計六百萬擔として大差なかる可し

●大日本製糖會社製品

大阪倉渡シ〔壹俵百斤入〕
轉ガシ値段

SA	五温	廿四圓五拾錢
SK	五温	廿參圓五拾錢
SL	五温	廿貳圓七拾錢
SB	四温	廿參圓五拾錢
SR	四温	廿參圓
ST	三温	廿貳圓五拾錢
SW	三温	貳拾貳圓拾錢
EX	三温	貳拾壹圓七拾錢
SU	三温	貳拾壹圓四拾錢
SO	三温	貳拾壹圓參拾錢

御注文は成行にて御勉強致候

◇ 角砂糖廿五封度入
一封度ニ付 貳拾參錢

●臺灣製糖神戶製品

〔大阪又ハ神戸倉渡シ〕
壹俵百斤轉ガシ

新 TBB	臺灣製糖三温	拾八圓九拾五錢
新 TOB	東洋製糖	拾八圓五拾錢
新 NSA	新高製糖	拾八圓五拾錢
新 MS	山明製糖	拾八圓五拾錢
新 SAA	新興製糖	拾八圓五拾錢
新 TAB	臺灣製糖	拾八圓六拾五錢
新 LSB	林本源製糖	拾八圓五拾錢
新 TEA	帝國製糖	拾八圓五拾錢
新 ESB	鹽水港製糖	拾八圓五拾錢
◎臺灣分蜜糖	大阪倉渡シ直積	
☆	四温	貳拾貳圓八拾錢
☆☆	四温	貳拾貳圓四拾錢

新 MS_B 治製糖 拾八圓七拾五錢

DN	二番糖	拾四圓拾錢
NSM	二番糖	拾貳圓貳拾錢
TOM	二番糖	切
SHB	同	切
TOM	赤特上	切
EBB	二番糖 ^{特上}	切
TEC	二番糖	切
TOC	臺灣赤糖	切
NE	同	拾貳圓七拾錢
●マニラ糖	大阪倉渡シ	
●檜入	二枚壹俵三、四十斤入	
飛切	參號	拾參圓拾錢
上	參號	拾貳圓貳拾錢
次	品	拾壹圓七拾錢
アンペラ	百斤俵	拾五錢高

●臺灣白糖

鹽水白双 A 印	廿貳圓八拾五錢
同 白糖 EK 印	廿壹圓八拾五錢
東洋白双 T 印	品
同 白双星 T 印	貳拾貳圓七拾錢
東洋三温 O 印	貳拾壹圓
全 星 O 印	貳拾圓六拾錢
●糖	蜜
△糖	蜜
日出 全	八圓八拾錢
●北海道片栗粉	大阪倉渡シ
一等粉	九圓六拾錢
先物拾、拾壹月	
●マカロニー	
六十ポント入一箱	拾參圓八拾錢

